

令和2年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

開催日時) 令和2年8月6日(木) 14～16時

開催場所) 倉敷市立自然史博物館講義室

協議事項) 令和元年度事業報告
令和元年度決算報告
令和2年度事業計画
令和2年度予算計画
その他

出席委員) 碓京子委員, 荻野正樹委員, 片岡博行委員, 小林祥一委員, 田口明子委員, 堀江明香委員, 三宅誠治委員, 宮原勝志委員, 山崎法子委員, 吉岡勉委員

欠席委員) なし

事務局) 井上正義教育長, 三宅健一郎生涯学習部長, 高嶋幸慶館長, 江田伸司主幹, 奥島雄一主幹, 石井陽子主任, 武智泰史主任, 狩山俊悟学芸員

傍聴者) なし

議事録（要旨）

1 開会

（事務局）これにて令和2年度倉敷市立自然史博物館協議会を開催する。

2 開会あいさつ

井上正義教育長

3 委員と事務局職員の自己紹介

4 倉敷市立自然史博物館での新型コロナウイルスの感染防止対策について

（事務局）マスク着用・触れる展示物の一部撤去・手指消毒剤の設置・スイッチなど触れる部分の定期的消毒・受付へのシールド設置・間隔をあける待ち位置のサインの設置・学習コーナーの席の再配置・非常口の開放による換気・入館者数制限・施設利用者名簿の設置・体温計の設置・北海道博物館が呼びかけとなって発足した「おうちミュージアム」への参加・KCTによる博物館の教育普及動画のユーチューブへの公開などにつき、資料をもとに説明

5 会長・副会長選出

小林委員を会長に、三宅委員を副会長に選出。

6 協議

（1）令和元年度事業報告について

（事務局）以下のとおり、資料をもとに説明した。

資料収集保管事業）もうすぐ収蔵標本が100万点になる。

展示事業）第28回特別展「地球の元素」の実施、各種特別陳列（「新着資料展2019」、「博物学者佐藤清明を知っていますか」、「鳴く虫サロン」、「第27回しぜんしくらしき賞作品展」、「草地功地学標本コレクション展 その2」）などの実施。

教育普及事業）自然観察会・博物館講座・各種教室・出前講座などの実施。

その他）ボランティアの活動状況、インターネットなどを使った広報活動、観覧者数など。

（2）令和元年度決算見込報告について

（事務局）以下のとおり、資料をもとに対前年比で増減額の大きなものを中心に説明した。

歳入）常設展観覧料は特に3月分が半減し、年間とおして149千円減少した。

書籍売払雑入は図録の作成がなかったため170千円減少した。

歳出）管理運営事業ではノート型パソコン購入や自動ドア修繕料などで681千円増加した。

特別展事業では図録作成がなかったため870千円減少した。

自然史博物館まつり事業では新たに老松小学校の校庭を駐車場として使用し、その駐車場

警備委託料などで168千円増加した。

(3) 令和2年度事業計画について

(事務局) 以下のとおり、資料をもとに説明した。

4月以降、展示・自然観察会・講座・イベントなどは、新型コロナウイルスの影響で中止が相次いだ。中には、募集人数を削減するなどして予定の日時で実施したものや、日程を変更して、今後、実施予定のものもある。

(4) 令和2年度予算計画について

(事務局) 以下のとおり、対前年比で増減額の大きなものを中心に資料をもとに説明した。

歳入) 常設展観覧料は新型コロナウイルスの影響が心配されますが、予算では昨年並みを計上している。

書籍売払雑入は、昨年度は特別展の図録の作成がなく、その売上げがなかったため、今年度作成する図録「岡山県のレッドデータ生物」の売上げで93千円の増加を見込んでいる。

歳出) 管理運営事業では、報酬が非常勤嘱託職員の会計年度任用職員への移行に伴い244千円の増加となっている。

特別展事業では、前年、図録の印刷がなかったため、図録「岡山県のレッドデータ生物」の印刷で印刷製本費などの923千円の増加となっている。

教育普及事業では、高梁川流域自治体連携事業の実施が加わり246千円の増加となっている。

(5) その他

議長: 事務局の以上の説明について、ご意見・ご質問等はありませんか。

委員: 展示では触れる展示が新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止となっているようだが、かわりに子どもとコミュニケーションをとれるような展示はないだろうか。予算的には考えられないか。

事務局: 博物館の事業については目下のところマンパワーで努力している部分が多い。観覧者の体温チェックのための体温計購入など、新型コロナウイルスの感染防止に関し一般的に関わる場所については予算は付きやすい。しかし、展示といった案件では予算化は難しいところがある。予算以外のところで何かできないかということで、ホームページ上で自然に関するさまざまな資料や動画の掲載などを行っている。いろいろ考えた上で予算措置が必要となれば、令和3年度の予算要求時に考える。なお、現在、倉敷市立自然史博物館友の会や倉敷芸術科学大学など、外部の方々のご協力を賜っている。例えば倉敷芸術科学大学とは拡張現実(AR)のイベントを秋に実施していただくように調整している。

委員: 今まで自然の標本を精力的に収集された世代が高齢化したり病気になったりして、そのコレクションの受け入れ先が全国的にも少なくなっている。倉敷市立自然史博物館では今後

も継続的に受け入れに前向きであるか。

事務局：本館だけでは収蔵のキャパシティを超えているので、市内に学校の空き教室など計3か所を仮収蔵庫として確保している。当館の資料収集方針にもとづいて、今後も当館に必要な資料ならば積極的に受け入れをしていくことに変わりはない。

委員：バードリサーチでは毎週金曜日にフライデーナイトセミナーとして研究者がインターネットでライブ配信により研究紹介しており、好評である。倉敷市立自然史博物館では収蔵庫の紹介などをライブ配信で紹介できないか。今後、新型コロナウイルスの影響で来館できない方が多くなると、このような方法で標本紹介することもよいのではないか。ZOOMでファイルを共有する形にしてユーチューブで紹介する方法などがあるように思う。それならば、映像を通してリアルタイムで質問することもでき、イベントや講座の代わりになるように思う。この動画をユーチューブに残しておく、後日繰り返しだれでもいつでも見ることができ、展示のかわりにもなると思う。

事務局：最初にKCTによる博物館の教育普及動画のユーチューブへの公開につき、報告いたしましたが、再生して見るとやはりプロであると感じるところがあった。当館の職員は撮影に関しては素人だが慣れば上手になるかもしれない。当館でも可能な範囲で検討していきたい。

委員：無理にプロでなくても、素人なりに撮ったものでも手作り感があって親しみが持ててよいと思う。

事務局：倉敷市立自然史博物館友の会ではメーリングリストで、専門家の視点で撮影した生物の画像が配信されており、当館の職員もそういう点では上手に画像撮影できると考えられるので、積極的に情報発信していきたい。また、SNSの発信を通じて当館にあまりご縁のなかった方からもコメントをいただくようにもなっている。今回の新型コロナウイルスの影響はピンチではあるが、それをチャンスとしてとらえ、新たな方にも利用していただけるようにしていきたい。

議長：ほかにはご意見はないか。

事務局：新聞記事にもとづき、倉敷市立自然史博物館が関わっている今年7月の熊本県人吉市における豪雨災害で被災した植物標本の修復・平成23年の東日本大震災で被災した生物標本の修復、倉敷市立自然史博物館収蔵標本から最近見いだされた新種の昆虫などについて説明。

委員：地震・津波・水害などの災害時に標本が影響を受けないよう対策を考えているか。

事務局：地震の場合は液浸標本のビンの棚の転倒防止やビンの落下防止といった対応をとっている。津波は倉敷市のハザードマップでは茶屋町あたりまでしかこないのが影響は考えていない。水害の場合、仮収蔵庫や本館地下の第2収蔵庫が心配である。今後、収蔵場所の確保などをして

いかなくてもならないが、すぐに対応するのは難しい。

議長：他にご意見ご質問等がないようですので、本日の協議を終了させていただきます。

6 閉会あいさつ

三宅健一郎生涯学習部長

7 閉会

(事務局) これにて令和2年度倉敷市立自然史博物館協議会を終了する。

協議会終了後、特別陳列「新着資料展 チョウ・ガ」を見学。

以上を、令和2年8月6日開催の令和2年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

令和2年 8月27日

倉敷市立自然史博物館協議会

会長 小林祥一

